

5月25日正午必着

明石春浦先生書

夏雨染成千樹綠
 暮風散作一江煙

夏雨染成千樹綠、暮風散作一江煙（錢惟善）

夏の雨は樹々の緑をよみがえらせ、夕暮の雨は川一面にもやを敷く。

明石幸子書

五月雨の空なつかしく
 匂ふかな花橘に風や吹くらむ

五月雨の空なつかしく匂ふかな花橘に風や吹くらむ（相模）



自著^{りんかんのげきをつしより}林間^{ろうそうきやくをとどむることさしく}履^き。來^{きたって}聽^き石上^{せいらいひまきにしずまん}琴^{とす}。
老僧^{らうそう}留^{とど}客^{きやく}久^{とど}。西嶺^{せいりやま}日將^{ひゆひ}沈^{しず}。
(高青邱)

下駄^{げた}を穿^はいて林間^{りんかん}に分^わけ入^いりし頃^{ころ}、石上^{せきじやう}に彈^たずる琴^{こと}の音^ねに聞^きき惚^ほれて居^いた。
すると、老僧^{らうそう}は、慇懃^{いんきん}に客^{きやく}を留^{とど}め、やがて、坐久^{ざひさ}しくして、西^{にし}の山^{やま}に夕日^{ゆうひ}が沈^{しず}みそうに成^なつて來^きた。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

日長^{ひなが}庭院^{ていゐん}清虚^{せいきよ} (本 誠)

日長^{ひなが}くして庭院^{ていゐん}清虚^{せいきよ}なり。

夏の日あし長く、庭は涼しくしずかである。

千峰^{せんぼう}鳥路^{ちようろ}含^ふ梅雨^{ばいう} 五月^{ごがつ}蟬聲^{せみこゑ}送^{おく}麥秋^{むぎあき} (李嘉祐)

千峰^{せんぼう}の鳥路^{ちようろ}梅雨^{ばいう}を含^ふみ、五月^{ごがつ}の蟬聲^{せみこゑ}麦秋^{むぎあき}を送^{おく}る。

鳥路は鳥だけしか通わぬような山路。山々はつゆ模様、五月の蟬は麦の収穫期を送ってな

送^{おく}朱放^{しゆほう}賊退^{ぞくしりぞ}後^{のち}往^ゆ山陰^{さんいん} (劉長卿)

朱放^{しゆほう}が賊退^{ぞくしりぞ}いて後^{のち}、山陰^{さんいん}に往^ゆくを送^{おく}る 劉^{りゅう}長^{ちやう}卿^{けい}

越中^{えちゆう}初^{はじめて}罷^は戦^{いくさ} 江上^{かうじやう}送^{おく}歸^き橈^{せう}

越中^{えちゆう} 初^{はじめて}て戦^{いくさ}を罷^はめ 江上^{かうじやう} 歸^き橈^{せう}を送^{おく}る

南渡^{なんと}無^な來^{らい}客^{かく} 西陵^{せいりやう}自^{おのずか}落^お潮^{ちゆう}

南渡^{なんと} 來^{らい}客^{かく}無^なく 西陵^{せいりやう} 自^{おのずか}ら落^お潮^{ちゆう}

空城^{くうじやう}垂^た柳^{りゆう} 舊^{ふる}業^{ごう}廢^{はい}春^{はる}苗^{めう}

空城^{くうじやう} 故^こ柳^{りゆう}垂^たれ 旧^{ふる}業^{ごう} 春^{はる}苗^{めう}を廢^{はい}す

閩里^{りんり}稀^{まれ}相^{あひ}見^み 鶯^{おう}花^か共^{とも}寂^{せき}寥^{りやう}

閩里^{りんり} 相^{あひ}見^みること稀^{まれ}に 鶯^{おう}花^か 共^{とも}に寂^{せき}寥^{りやう}

波^{なみ}の上^{のうへ}に躍^{おど}りあがり落^おつる海^{うみ}豚^かの群^{ぐん}そこにもここにも飛^し沫^{ぶき}をあげつ (川田 順)

負言 幽期不

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

5月25日正午必着

行書

幽期不
負言

隸書

幽期不
負言

明石春浦先生書

草書

幽期不
負言

行草書

幽期不
負言

しずかなわびずまい、隣り合う家とてなく 草むす徑は、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる
鳥は池の中の木立にやどり 僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）
橋を過ぎてなおも存する野のけはい 山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入る
しばらく他処に行っていました。またここにもどって来ました 風雅のちぎり、決して言に違ふことはありません

題「李疑幽居」

賈島

閑居少鄰並

草徑入荒園

鳥宿池中樹

僧敲月下門

過橋分野色

移石動雲根

暫去還來此

幽期不負言

李疑が幽居に題す

閑居 鄰並少に

草徑 荒園に入る

鳥は宿る 池中の樹

僧は敲く 月下の門

橋を過ぎて 野色を分かち

石を移して 雲根を動かす

暫らく去りて 還た此に来る

幽期 言に負かず

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より



(噙粒) 絶漿。殆乎滅性。成人之德。見稱州里。免喪之後。乃發弘誓。而以風樹不停。浮生何恃。思去髮膚之愛。將酬(岡極之恩)

(噙粒) 絶漿して、殆ど性を滅し、成人の徳は、州里に称せられ、喪を免るるの後、乃ち弘誓を發す。而して以えらく、風樹は停まらず、浮生は何をか恃まん、と。髮膚の愛を去らんとし、將に(岡極の恩に)酬いんとして、



成人の徳は、



成人の徳は、州里に称せられ、喪を免るるの後、乃ち弘誓を發す。

唐 歐陽通・道因法師碑

歐陽通（生年不詳―六九一）は潭州臨湘（河南省）の生まれで、字は通師。儀鳳四年（六七九）に中書舍人に任命され、出世を重ねて、唐の重臣として仕えたが、皇太子の指名問題で苦言を呈し、謀殺されたと言われている。

彼は初唐の三大家と称される歐陽詢の第四子として生まれたが、幼い時に死別しており、父の手ほどきをあまり受けられなかったようである。しかし、母から父の書法を学んだり、市場に出回った父の書を買ったりして一心に歐書を研究、精進したと言われている。そして、後には父は大歐陽、彼は小歐陽と呼ばれ並び称せらるるほどになったと言う。

現存する彼の書碑は、泉男生墓誌銘とこの道因法師碑である。高さ約3メートル、幅約1.2メートルの巨石で34行、毎行73字から成る。楷法の極則と言われる九成宮醴泉銘などの歐法をしっかりと受け継ぎながら、北魏風の書法を取り入れた力強い起筆や終筆、処々に見られる隷書的な跳ね上げなど独自に研鑽を重ねたと思わせる書風に注目したい。（春濤）



ちょう
調

さ
査

中学一年

雨宮春聲先生書



かけ
掛

じく
軸

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



の
野

みち
道

小学五年

榎戸春龍先生書



でん
伝

とう
統

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

5月25日正午必着



ふう りょく

小学三年

藤田幸春先生書

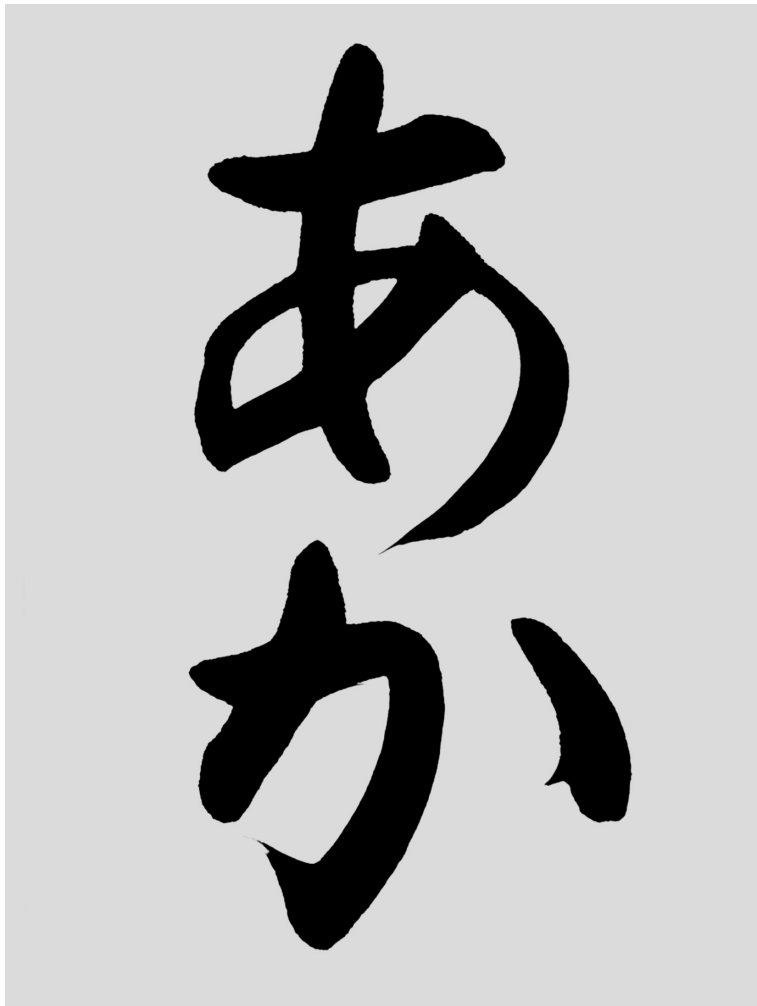


とう きょう

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

あ か 小学一年・幼年



森戸春濤書

生 む 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

電気や水道などを
せつやくして使う

小学五年

清潔な身なりは人に
良い感じをあたえる

小学六年

身のまわりの出来事の
中から題材をさがす

中学

のま立ちよあふれる光よ
のどろろを浴びて揺れる朝

一般(級位)

霞立つ 末の松山 ほのぼのと 波にはなるる 横雲の空 (藤原家隆)

霧立つ末の松山ほのぼの
と波にはなるる横雲の空

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

は	ち
	い
こ	さ
ど	い
も	ひ
た	ご
ち	い

幼年

ぼ	ば
う	ん
に	犬
ほ	が
え	
る	ど
	ろ

小学一年

花	い
だ	え
ん	の
を	南
つ	が
く	わ
る	に

小学二年

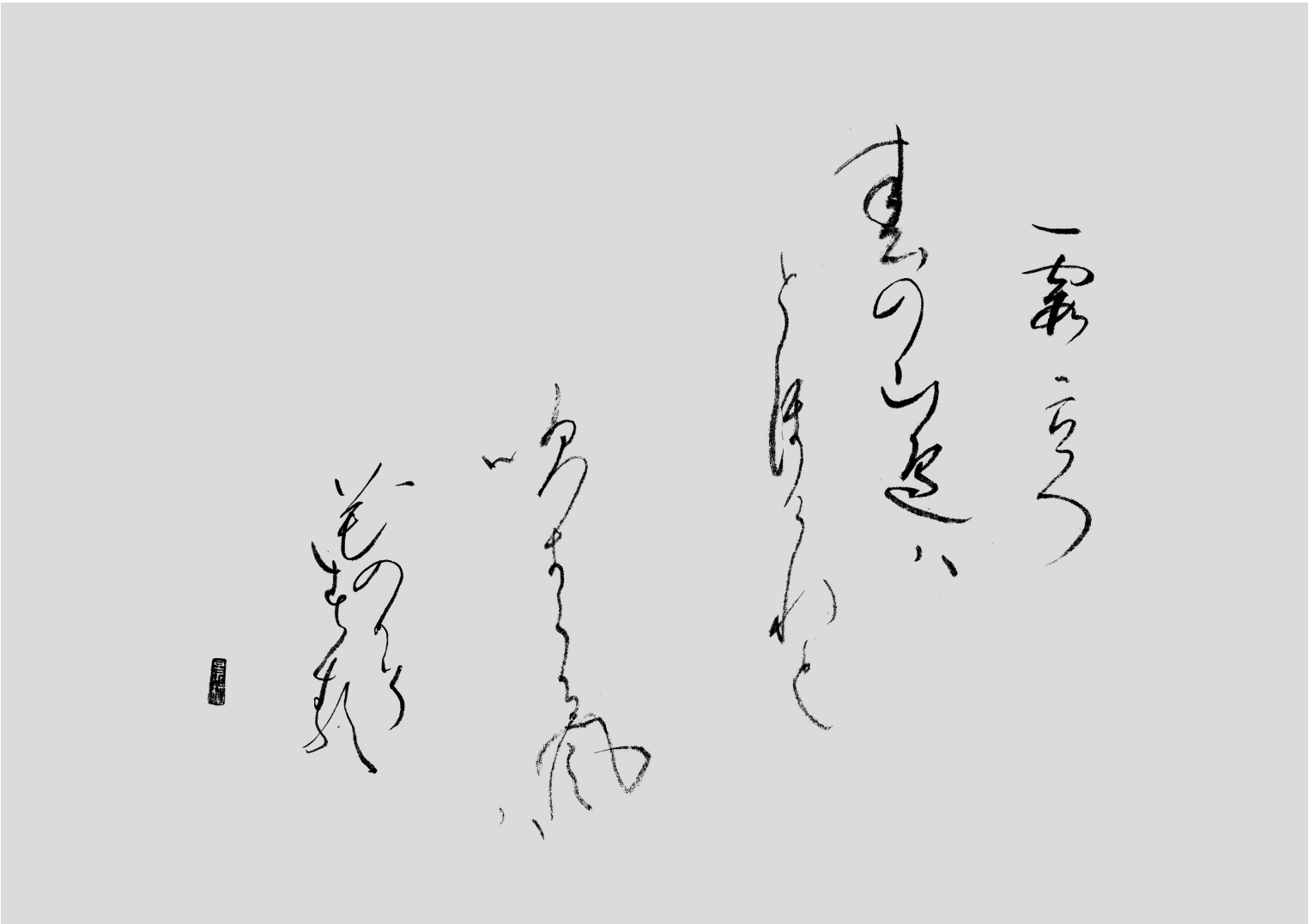
ぐ	五
	月
こ	の
い	空
の	に
ぼ	お
り	よ

小学三年

脈	手
は	首
く	に
を	指
は	を
か	あ
っ	て
た	て

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

霞立つ春の山邊は
ハとほけれど
ハ吹きくる風は
ハ花のかぞする
可曾春類
(在原元方)